

おおふなと 社協だより

 ふれあいネットワーク



2019年9月号

【特集】じぶんの町を良くするしくみ…2～3
2019年おおふなとボランティアフェスティバル…4
和村地区盆踊り大会……………4
れいわサロンゆっこり……………5
体験学習受入……………5
お知らせ……………6～7
輝き人……………8



今月の表紙

こまつのりひこ
小松紀彦さん
みちこ
美智子さん





赤い羽根共同募金 10月1日全国一斉にスタート

じぶんの町を良くするしくみ

～誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるように～

全国一斉にスタート

令和最初の赤い羽根共同募金が10月1日（火）から全国一斉に展開されます。

共同募金は、戦後間もない昭和22年に、市民が主体の民間運動として始まり、当初は被災した福祉施設の支援を中心に活用されてきました。が、法律の整備、その時代の要請にに応じて、その役割を変化させてきました。現在は、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、様々な地域福祉の課題解決に取り組む民間団体を応援する仕組みとして位置づけられています。

じぶんの町を良くするしくみ

共同募金は、大きく一般募金と歳末たすけあい募金に分けられます。一般募金は、地域福祉活動を行っている団体への活動費の助成等、歳末たすけあい募金は新たな年を迎える時期に、支援を要する人たちを支える活動等に活用されます。

これらの募金は、活用方法と必要額（目標額）を決めてから募金に取り組むため、「計画募金」と呼ばれています。各世帯に協力をお願いする戸別募金において、募金の目安額を示しているのは、この目標額達成に向けて取り組んで

いるためです。

一般募金は次年度の地域福祉活動に活用されますが、寄せられた募金の約7割（※）が募金された市町村で、約3割が市町村を越えた広域において、課題解決のために活用されます。

一方、歳末たすけあい募金は当年度の歳末時期に、募金を寄せられた市町村で全額活用されます。

共同募金は、大船渡のまちを、そして岩手のまちを良くする仕組みとなっております。

※被災前と同程度の地域福祉活動費となるよう配慮されているため、7割以上の配分額となっております。

被災地支援の取組

近年、全国各地で災害が多発しています。その発生時には、被災者に対する義援金の受付を行っているほか、被災地におけるボランティア活動の支援や被災地住民のコミュニティ作りを支える募金（ボラサポ募金）にも取り組んでいます。

このボラサポ募金を基に、岩手県共同募金会では、東日本大震災被災地のコミュニティ再興や住民同士の支え合い活動を支援する「被災地住民支えあい活動助成事業」を実施しています。平成30年



立根小学校児童会では災害義援金の募金活動に取り組みました

度は大船渡市内の15団体に対し、293万円が助成されています。

また、一般募金のうち3%を上限に災害等準備金として積み立てられており、災害発生時にボランティア活動の拠点となる災害ボランティアセンターの運営資金として活用されています。

配分金の活用内容

今年度の大船渡市への配分金は5,427,472円で、その活用内容は、社協だよりやホームページ管理の広報活動費に約67%、ボランティアセンター運営事業費に

平成30年度募金実績

1 一般募金・歳末たすけあい募金 単位:円

募金種別	募金実績額	
	一般募金	歳末たすけあい募金
戸別募金	5,118,900	2,091,900
街頭募金	128,319	162,017
法人募金	58,411	0
学校募金	122,895	129,074
イベント募金	9,772	0
職域募金	0	507,850
個人募金	160,995	89,464
その他	210,235	405,621
合計	5,809,527	3,385,926

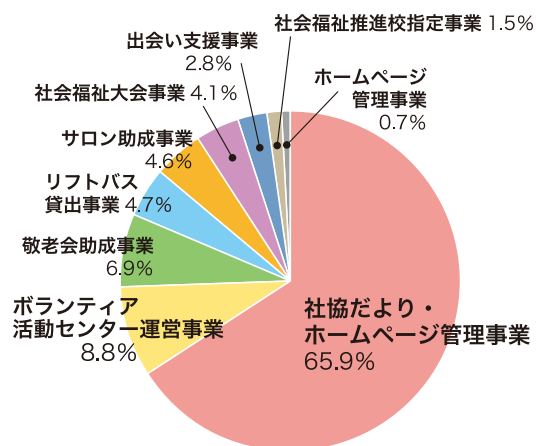
2 地域みまもり応援募金(個人募金) 4,120円

3 災害義援金 単位:円

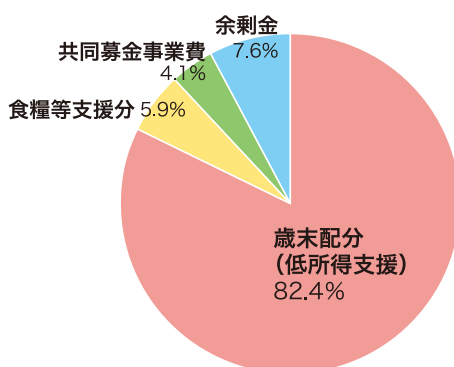
義援金名	募金実績額
大阪府北部地震義援金	10,360
京都府平成30年7月豪雨災害義援金	11,541
平成30年7月豪雨災害義援金	526,598
北海道胆振東部地震害義援金	252,070

【図1】

一般募金



歳末たすけあい募金



約9%、敬老会助成事業費に約7%などとなっています。(図1参照)

募金は身近なボランティア活動

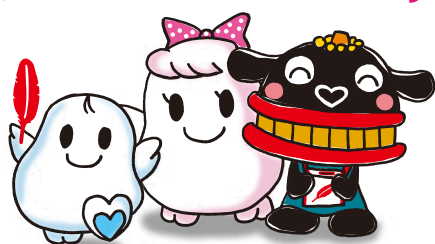
大船渡市共同募金委員会では、今年度も各世帯に協力をお願いする「戸別募金」を中心に、募金活動を展開します。募金目標額は、一般募金が600万円、歳末たすけあい募金が350万円、一世帯当たりの目安額は、それぞれ500円と200円に設定しています。この目安額は強要するものではありません。各世帯相応のご協力をいただければ結構です。

そのほか、市内店舗やイベント等において協力を呼びかける「街頭募金」や「イベント募金」、企業に協力を呼びかける「法人募金」、学校や職場単位での取組を呼びかける「学校募金」や「職域募金」などにも取り組めます。

今年度の街頭募金は、10月1日(火)に、大船渡市地域婦人団体連絡協議会、盛こども園、大船渡保育園、明和保育園、猪川保育園、立根保育園、立根地区民生児童委員協議会のご協力のもと、サンリア、マイヤ大船渡店・赤崎店・インターネット店の4カ所において、10時から15時まで実施します。

募金する人も、協力を呼びかけ

ご協力をよろしくお願ひ致します



る人も、みんながボランティアです。身近なボランティア活動としてご協力くださいますようお願いいたします。

寄附金の税制優遇

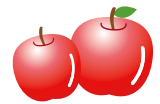


法人による共同募金への寄付は、「指定寄付金」として、寄付金の全額を損金算入することができます。

また、個人による2千円以上の寄付も、「特定寄付金」として、所得控除または税額控除の適用を受けることができます。

確定申告を行う際には、共同募金会が発行する領収証の添付が必要となります。

今年も秋に開催します 2019もおおふなと ボランティアフェスティバル



市内のボランティア団体が一堂に会し、来場者が身近にボランティア活動に触れる機会を設けることを目的に、2019もおおふなとボランティアフェスティバルを開催します。

手話、点字、キヤップハンデなどのボランティア体験ができるコーナーの他、今年は視聴覚障がい者用情報等移動機器展も同時開催し、視聴覚障がい者用情報機器、日用品補助具などの展示・紹介を行います。

中学生までを対象としたスタンラリーでは、体験コーナーでスタンプを集めた人に景品を用意し



市内の様々なボランティア団体の活動に触れることができる機会です

ています。

子どもから大人まで楽しめるイベントです。お気軽にご参加ください。

○日時 10月6日(日)午前10時～午後5時
○場所 福祉の里センター交流広場(雨天時は福祉の里センター内)

○内容 ①みんな友達コンサート
②ふれあい食堂(焼き鳥、おにぎり、うどん等)③ふれあい即売(施設製品販売)④ふれあい広場(わたあめ、ポップコーン、駄菓子等)⑤ボランティア体験コーナー⑥スタンラリー⑦じゃんけん大会⑧チャリテイバザー⑨フリーマーケット⑩赤い羽根共同募金コーナー⑪ボランティア・NPO団体紹介

○バザー品提供のお願い

毎年大好評のチャリテイバザーは、市民の皆さまからご提供いただき運営しています。ご家庭に眠っている未使用品のご提供にご協力ください。

○フリーマーケット出店者募集
出店を希望する方は事務局までご連絡ください。出店料は1区画1,000円です。

申込締切 9月27日(金)
○実行委員会事務局(社協内)
27-0001

地区の仲間の結束を高めるために 和村地区盆踊り大会



8月14日(水)、和村地区盆踊り大会実行委員会(瀧澤清人実行委員長)による「和村地区盆踊り大会」が立根町の泉宮関谷団地内で開催されました。

この盆踊り大会は、30年ほど前地区のPTAが万灯籠を作成したのを契機に始められた伝統行事で、今年は6月から準備をしてきたそうです。

当日は、団地の住人、地域住民など150人以上が来場。焼きそばや焼き肉、焼き鳥、飲み物が無料振る舞われ、子どもから高齢



子どもから大人まで多くの人がこの時間を楽しみました

の人まで幅広い年代の人たちの笑顔が見える時間となりました。

瀧澤実行委員長は「東日本大震災を経て、この団地住民を含め、新しい住民が増えました。早くこの地域に溶け込んでほしい思いで、去年から関谷団地で開催しています。寂しい思いをせず、顔の見える付き合いをこれから先もしていきたいです」と話してくれました。

東日本大震災で被災し、その年の11月に和村地区に転入してきた前公民館長でもある日野敬三さんは、「これから暮らしていくこの地域の一員に早くなりたい思いから公民館活動に積極的に参加してきました。明るく元気に暮らすためにも、まず一度顔を出しましょう」と地域活動への参加を呼びかけています。

和村地区では以前、団地住民との交流会を開催し、地区内を案内するなど住民がスムーズに地域に馴染めるよう多くの工夫をしてきました。孤独死が問題視されるなか、今後は見守り活動を進めたいとのこと。

ゆつくり、ほつくり、まちなかサロン れいわサロンゆつくり



今年度、新たに誕生した「れいわサロンゆつくり」は、市内全域の高齢者を対象としたサロンです。活動日は、毎月第4水曜日。会場の地域活動支援センター星雲内のフリースペースには、毎回10人ほどの参加者が集まります。

スタッフは11人。それぞれの得意分野を活かし、朗読、合唱、手芸など、さまざまなメニューがありますが、毎回、必ず行うのは「脳トレ」です。空いているマスに文字を加えて言葉を完成させるクイズや、手足や指を動かしながらの合唱で、脳の活性を促します。



参加者、スタッフともに居心地の良い場所にしていくことが今後の目標とのこと

昼食時間に、健康推進員や食生活改善推進員として活動しているスタッフが手作りした食事が提供されるのも、このサロンの特徴の一つ。塩分やカロリーを考えながらも美味しさにもこだわったメニューは、自宅でも実践できるような食材の栄養価や味付け方法なども説明します。「毎回、食事を楽しみに参加している」と話す人もおり、参加者から好評です。

このサロンで、同郷出身の人と知り合い、故郷の話に花を咲かせる人、仲間と過ごす時間を楽しみに参加している人、サロンの運営を支える人など、一人ひとりが、いきいきと活動しています。

「赤い羽根共同募金の助成金があったから、新しいサロンを立ち上げることが出来た。ここに集うことでお互いが支え合う、助け合う、気遣いあう気持ちから育まれていけば嬉しい。スタッフも参加者も認知症サポーター養成講座を受講しているの、それぞれが、何か役に立ちたいという気持ちで集っています」と、代表の菅野遠久子さんは話していました。

れいわサロンゆつくりは「赤い羽根共同募金」の助成を受けて実施しています

地域福祉を学びたい 体験学習受入



社会福祉協議会では、次世代の福祉現場で働く人材を育成するために、福祉現場への就職を目指す大学生の他、中高生の体験学習を受け入れています。

今回、8月5日から8日までの4日間の日程で体験学習を行ったのは、東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科3年の松岡南都さん。松岡さんの希望で、利用者の支援現場に同席したり、実際に利用者とは面接も行って支援方針を検討してみました。

松岡さんは、所属しているゼ



実際の福祉の現場を体験してこれからの学びに生かします

ミでの学習をきっかけに、地域の福祉課題をその地域に住む人や福祉関係者などが協力して解決することを目指す「地域福祉」について関心が高まり、社会福祉協議会での実習を希望したそうです。

「現場の職員のみなさんは、たくさんさんの知識やスキルを使いながら地域の人と関わっていることを知りました。実際にそのような現場を肌で感じて短い間ではあつたけれど、内容が濃い体験学習になりました。人の人生に関わっていくことは大変ですが、やりがいも感じます。これからは、もっと視野を広げて、いろんな人と関わって経験を積んでいきたいです」と話してくれました。

松岡さんは、今回の体験学習を経て、来年度は社会福祉士国家試験受験資格要件となつている約24日間、180時間の現場実習に臨みます。

将来、一緒に大船渡市の福祉を支える仲間になれたら嬉しいです。

ほいくしカフェ

保育士の有資格者で、保育士として従事した経験がある人を対象に、保育士の再就職についてお話する場です。

日時 10月11日(金)
午前10時30分～正午

場所 大船渡市Y・Sセンター 和室

参加費 無料

申込締切 10月10日(木)正午まで

申込・問い合わせ先

岩手県社会福祉協議会

保育士・保育所支援センター 山田さん

電話 019-637-4544

*大船渡市ボランティア活動センター情報

ボランティア養成講座

ボランティア養成講座を開催します。今年度は新たに傾聴ボランティア養成講座を開催することとしました。

(1)点字教室

日時 9月25日～10月23日の毎週水曜日(全5回)午後7時～午後9時

(2)傾聴ボランティア養成講座

日時 10月17日～31日の毎週木曜日(全3回)午後7時～午後9時

(1)(2)共通事項

会場 大船渡市総合福祉センター

受講料 無料

*大船渡市Y・Sセンター情報

トレーニング教室

10月から第3期筋力トレーニング教室とリズム体操教室を開催します。

場所 大船渡市Y・Sセンター

申込方法 前日までに直接来所で申込み。

トレーニング教室日程

教室名	開催日	定員	受講料
筋力トレーニング(水曜クラス)	10月9日～12月18日 毎週水曜日(全11回) 午後2時～午後3時	40人	600円
筋力トレーニング(金曜クラス)	10月11日～12月13日 第2・4金曜日(全5回) 午後2時～午後3時		500円
リズム体操	10月4日～12月20日 第1・3・5金曜日(全7回) 午前11時～正午		600円

※筋力トレーニング(水曜クラス)の10月2日(水)は講師の都合により休講致します。

「募集」「イベント」「お知らせ」など暮らしに役立つ情報をお届けします。



申込・問い合わせ先 大船渡市社会福祉協議会
電話 0192(27)0001(代表)

*子育て支援事業情報

つどいの広場内イベント

下記の日程でイベントを開催します。お気軽にお越しください。

つどいの広場イベント日程(10月)

開催日	内容	時間
3日(木)	はじめてさんの日	午前10時～午後4時
	計測の日 (成長記録カード作り)	午前10時～正午 午後1時～午後4時
12日(土)	ともみんの健康相談会	午前10時～正午
17日(木)	ハローワーク 出張おしごと相談会	午前10時30分～正午
	わいわいトーク	正午～午後1時



*岩手県福祉人材センター情報

介護技術おさらい講座 ～介護のしごとと再就職支援講座～

介護福祉士や訪問介護員などの有資格者に限らず、介護職に従事した経験があり再就職を考えている人を対象に、再就職のお手伝いをします。

日時 10月24日(木)
午後5時30分～午後9時(受付午後5時から)

会場 大船渡市総合福祉センター

内容 介護技術講座
求人情報提供、個別相談

定員 10人

参加費 無料

その他 動きやすい服装着用

介護のしごと相談

キャリア支援員が福祉の職場に就職したい人などの相談に応じます。相談を希望する人は、下記の問い合わせまでご連絡下さい。

申込・問い合わせ先

岩手県福祉人材センター 坂本さん

電話 080-8201-0200

職員募集

令和2年4月1日採用予定の職員採用試験を次のとおり実施します。

募集職種及び予定人数

一般事務職員 若干名

【応募資格】昭和55年4月2日～平成14年4月1日までに生まれた人

【試験日時】(一次試験)

令和元年11月3日(日)午前9時
(二次試験)

令和元年12月8日(日)午前9時
*一次試験合格者のみ

【試験会場】大船渡市Y・Sセンター

受験申込書・受験票交付

(1) 直接交付(場所:事務局(立根町字下欠125-12)、介護ステーション(盛町字下館下14-1 大船渡市総合福祉センター内)

(2) 郵送による交付(封筒の表に「試験請求」と朱書きし、返信用封筒を同封の上、事務局へ請求する)

(3) 本会ホームページからダウンロードする
申込方法 受験申込書及び受験票に必要な事項を記入し、事務局へ提出

受付 令和元年9月24日(火)～10月18日(金)午前8時30分～午後5時15分(土日・祝日を除く)*郵送での受付は、同日午後5時15分まで

その他 実施要項は受験申込書等を交付する際に配布するほか、本会ホームページに掲載します

照会先 大船渡市社会福祉協議会事務局
総務課 石橋

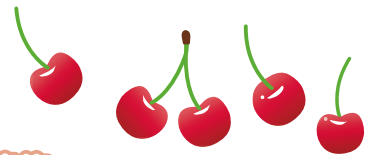
苦情解決窓口のご案内

大船渡市社会福祉協議会では、社会福祉法第82条の規定に基づき、住民及び利用者の方々に満足いただける事業やサービスを提供するため、苦情や要望等に適切に対応できる対応を整えています。

苦情や要望等がありましたら、まずは身近な職員にお話下さい。

なお、直接、第三者委員に相談することもできます。

- (1) 苦情解決責任者 金野敏夫(事務局長)
- (2) 苦情受付担当者 石橋厚子
(総務課長補佐)
- (3) 第三者委員 熊谷勵、保原勘二



災害義援金募集

大船渡市共同募金委員会では、令和元年8月佐賀県豪雨災害により被災した人への義援金を受け付けます。

受付場所 大船渡市Y・Sセンター

その他 救援物資・物品は取り扱いません。

ホームページで社協活動を日々更新中です。



<http://ofunato-shakyo.com>

今月の表紙

小松 紀彦さん
美智子さん
(大船渡町在住)

健康の秘訣は「水中運動」と話す小松夫妻は、いつも2人揃って週4～5日、Y・Sセンターのプールを利用している、仲睦まじいご夫婦です。



10月号課題「雑詠」

締め切り
10月4日(金)必着。
1人1句。
(自信作をひとつ)
はがき使用。

投句先
立根町字下欠125-12
「Y・Sセンター」内
大船渡市
社会福祉協議会
「ふくし川柳」係

その他
作品によっては、
添削する場合があります。
投句者の氏名にはフリガナをつけてください。

(評)できればこの句のように、人生を終わらせたいと私も思っている。でも、なかなかそうはならないのもまた人生なのだ。

《佳作》
散り際は 一人静かに 逝く覚悟

越・平田 栄夫

「ふくし川柳」
東の間の夢を見させて散る花火
散り際に惜しまれるなら幸福だ
微笑んで花散るように逝った母
戦場に散らした命語り継ぐ

末・滝田 澄子
大・岩渕ヨシエ
盛・金野由利子
吉・千葉 元子

課題「散る」 富谷英雄選

輝き人

こまつ 小松 みよ子さん (64歳)

末崎町在住。社会福祉法人末崎保育会末崎保育園で保育士として勤務。家族の介護の傍ら、定年後も、なお現役で現場で活躍している。



からだが続く限り、 楽しいこの仕事を続けたい

○40代で気づいた保育士の楽しさ

高校時代、母親の「手に職をつけなさい」という言葉をきっかけに、保育士の資格を取得しようとして、学校卒業後、千葉県の児童養護施設に就職しました。4、5年ほど勤務しました。保育士といえば保育園勤務のイメージですが、当時は保育園以外の場所で働きたかったんです。その後、結婚を機に大船渡市に戻ってきましたが、子育て等で忙しく、しばらく子ども関係の仕事からは離れていました。

保育園の保育士として働き始めたのは子育てがひと段落した40代後半。知人の勧めで始めた仕事でしたが、そこから子どもたちの魅力、保育士の楽しさに気づかされていくことになったのです。

○続けられる原動力

この仕事を今でも続けられるのは、子どもたちが好きで保育士

という仕事が楽しいから。保育園に勤務して初めてわかったことでした。

今、2歳児のクラスを受け持っています。オムツからパンツに変わって1日お漏らしをするともなく過ごすことができたり、今まで食べられなかったものが食べられるようになったりなど、日々子どもたちの成長、変化を肌で感じられることに喜びとエネルギーをもらっています。悩みや後悔もありますが、辞めたいと考えたことはなかったように思います。

○家庭と仕事の両立

東日本大震災後、夫と義理の父が体調を崩し介護が必要となりましたが、介護をしながら仕事を続けてきました。60歳の定年を迎える頃、夫と義理の父が亡くなり、これからは義理の母の介護に専念していくんだと思っていた

ところ、園長先生から「これからも勤務してほしい」と言われたんです。自分が必要とされていること、楽しい保育士をこれからも続けられることがとても嬉しかったのを覚えています。介護と仕事の両立は大変ですが、毎日充実した日々を過ごしています。

○子どもももっとふれあいを

今、メディアで虐待など悲しいニュースが後を絶ちません。今は、昔と違い家族形態も変わりました。夫婦共稼ぎの時代になりました。そのこともあり、子どもたちは保育園で1日の大半を過ごしていますが、保育園でできることは限られています。

大変な中で子育てをしている家族ばかりとは思いますが、少ない時間のなかでも、どうか子どもたちとたくさんふれあいを持ってくれたらと思います。そのなかで子どもたちも多くを学び、親御さんとい関係性をつくれると思っています。